

JLEM News Letter Vol.29



第34回日本語教育方法研究会開催

発表 48 件 参加者 167 名
第 35 回は金城学院大学にて

2010年3月27日(土)、第34回日本語教育方法研究会が東京農工大学で開催されました。今回は博物館の素敵な建物をお借りしての研究会となりました。馬場真知子先生はじめ、東京農工大学の皆さま、大変お世話になりました。

当日は、研究会と併せて総会が開かれました。また、前日3月26日に運営委員会が開かれました。議事については、このレターの記事をご覧ください。

総会での大きな話題は代表・事務局の交代です。新会長として東京国際大学の川村よし子先生が、事務局として横浜国立大学の金庭久美子先生が就任されました。今まで会長を務めてくださった才田いずみ先生、事務局の名嶋義直先生、本当にありがとうございました。

今回の研究会は、2010年9月11日(土)金城学園大学において開かれます。研究会でのご挨拶によると「くりきんとん」がおいしいとのこと。みなさまふるってご参加ください。

開催を終えて 馬場真知子 (東京農工大学)

2010年3月27日(土)に東京農工大学で、第34回日本語教育方法研究会が開催されました。3月末にしては少し気温は低めでしたが、幸い天候に恵まれ、桜も咲き始めたキャンパスでの開催となり、発表48件、参加者167名(新入会20名、当日参加25名含む)と大盛況となりました。

会場の都合で、ポスターセッションは、東京農工大学工学部の母体となった科学博物館(旧繊維博物館)という一風変わった古めかしい会場で行われたため、天井が高く、声が聞こえにくいなどのご不便をおかけしましたことお詫びいたします。

しかし、国内のみならず、海外からの参加もあり、日本語教育の実践、教育方法、教材開発、など多岐にわたる発表がなされ、いつも以上にポスターセッションでは活発な議論が行われました。今回、口頭発表会場とポスターセッション会場が少々離れていたことで、大会の進行について多少危惧しておりましたが、会員の皆様、運営委員の皆様のご協力の

もと設営、発表、片付けまで円滑に進み、懇親会にも多くの方に参加していただくことができ、充実した会となりました。会長、事務局交替前の最後の大会となりましたが、滞りなく終わることができましたこと心より感謝いたします。ありがとうございました。

次回開催にあたって 内山 潤 (金城学院大学)

次回JLEMは、2010年9月11日(土)に名古屋の金城学院大学で開催されることになっております。金城学院大学は、名古屋駅から電車で30分ほどのところにあります。JR中央線・大曽根駅で、名鉄瀬戸線に乗り換えていただき、大森・金城学院大学前で降りていただければ、すぐのところ。キャンパスは豊かな自然に囲まれており、キャンパス内でも珍しい野鳥を目にすることができます。大学の事業としても、「里山キャンパスプロジェクト」というものを立ち上げ、この恵まれた環境をより一層活用していけるような様々な取り組みをおこなっています。

中部地区でJLEMが開催されるのは、2003年の名古屋外国語大学以来で、7年振りということになります。9月の名古屋は、くりきんとんに限らず、いろいろおいしいものが食べられる時期です。また、開催日周

辺は、『愛知トリエンナーレ』の開催期間中になりますので、観光面でもお楽しみいただけたと思います。この機会にできるだけ多くの方に足をお運びいただければと考えております。

総会報告

2010年3月27日、第34回大会会場の東京農工大学13号館の1331教室において、午後1時50分から総会を行いました。JLEMの会員数は2010年3月27日現在523名との報告がありました。定足数は会員数の10分の1なので53名ですが、総会出席者は2倍以上の132名でした。

報告事項で大切なお知らせがありました。

まず、会員資格のことですが、今年度から5月末の時点で会費の納入が確認できない方には、9月からの会誌の送付を停止します。ニュースレターは来るのに会誌が来ない、という方は会費の納入についてご確認ください。

次に会誌のバックナンバーの電子化に関する許諾の件です。これについては、このニュースレターにも記事が出るかと思いますが、大事なことなので、総会報告にも書きます。これまでJLEMで発表なさった方には、電子化の許諾について、メールで許可をお願いする、という作業をしてきましたが、メールアドレスが変わっていたりして、なかなか連絡がつかない方が大勢いらっしゃいます。そこで、バックナンバーの電子化に関して異議のある方はお申出ください、というお知らせを、ニュー

スレターやホームページに掲載することにしました。そして2011年3月31日までに異議の申し立てがない場合には、許可を頂戴したと見なすという扱いにさせていただくことにしました。

審議事項にも重要な案件がありました。会長と事務局の任期満了（1期2年で2期まで）に伴う、新会長と新事務局の選任です。候補者は運営委員会が推薦しました。新会長には、川村よし子氏（東京国際大学教授）、金庭久美子氏の就任が承認されました。当面の任期は2010年4月～2012年3月末までの2年間です。

運営委員にも若干の異動がありました。まず、会長を退く才田と事務局の任を終える名嶋義直氏が、前例に従って、1年間、運営委員となることが承認されました。また、この4月から新たな運営委員として依山雄司氏（群馬大学）の就任が承認されました。依山氏には、会誌の編集担当業務に加わっていただきます。

1年に1度の総会ですので、2009年度決算案と2010年度予算案もご審議いただきました。決算の収入の部では、会費収入が118万8千円で、396名分が納入された勘定になっています。実は、昨年度の会員数は570を超えていましたので、納入率は7割弱とあまり芳しくありません。支出の部では、印刷・郵送費が約87万円が一番大きな支出でした。ほかに、大会の会場費やアルバイト代にもそれぞれ11万円程度の金額を支出しています。収支バランスは、おかげさまで若干の黒字となり、前年度より13万程度多い286万円余を繰り越すことができました。2010年度予算は、会場費やアルバイト代、下見の

ための旅費などを前年度より多めに見積っています。会費収入は8割という見通しで予算化していますので、繰越金を除くと若干赤字の予算になっていますが、実際には、会誌送付停止など、会費納入促進策もとっていますので、ご心配いただくようなことにはならないと考えています。

なお、予算に絡んで、そろそろ20周年を迎えるJLEMとして、繰越金の一部を利用して、何か記念事業を考えてみては…という提案があり、8月末を締切に、会員のみなさまから企画を募ることになりました。よろしくお知恵をお貸し願います（詳細は別項参照）。（才田いずみ）

運営委員会報告

大会前日の3月26日の午後6時より、農工大学の13号館にて第34回の運営委員会を開催しました。19名出席、委任状3名で成立しました。ここでは、総会報告と重複しない事項のみ報告します。

バックナンバーの電子化に関連して、現在の会誌の印刷データが電子データとしてJLEMに納品されているわけではないという実情に鑑み、国立情報学研究所が運営しているデータベースCiNiiを利用するのはどうだろうか、という意見が出され、積極的に検討することになりました。また、スキャナーで取り込んで電子化してきたデータの扱いについて考える上でも、再度、バックナンバー電子化に関するワーキンググループを置くことが望ましい、ということになり、根津、保坂、松崎の3委員に、川村新会長と金庭新事務局が加

わって WG を構成することになりました。

大会の進め方を今回から若干変更することにしました。これまでは、午前と午後の口頭発表のあとにそれぞれのポスター発表タイトルと発表者を紹介し、発表者にはご起立いただきてきましたが、今回からこのご紹介を省略することにしました。このところ発表件数が増えていることもあって、少しでも時間を節約してポスター発表の時間を長く確保したほうがよいと考えての変更です。

これまで、会費滞納によって会員資格を失った方が再入会を希望される場合には、滞納分の会費も併せてお支払いいただいてきましたが、本年9月より、滞納者には会誌を送付しなくなりますので、2011年3月の大会からは、再入会希望者に滞納分の会費請求はしないことになりました。再入会者が送付停止分の会誌を希望する場合には、バックナンバーとして別途購入していただくこととなります。(才田いづみ)

20周年記念事業

アイデア募集

総会報告・事務局からのお知らせにもありますが、JLEMは、2013年に発足20周年を迎えます。そこで、日本語教育学会の学会賞をいただいたこともあり、その繰越金を利用して20周年記念事業を行うことを企画しております。

10周年の際には、新進研究者の研究を支援するという意味で、5万円ずつ研究助成金をお出しし、それを論文にまとめたものを10周年記念誌として発行いたしました。

節目の20年、たとえば、シンポジウム開催・論文集発行など、いろいろな企画があるかと思えます。「こんなディスカッションができれば」「こんなことが聞きたい・読みたい」「こんなことを発表してみたい」など、アイデアがありましたら是非お寄せください。

締切：2010年8月31日

宛先：jlem-ml@tiu.ac.jp

新事務局よりご連絡

金庭久美子

●事務局移転のお知らせ

2010年4月1日より事務局が東京国際大学言語コミュニケーション学部 川村研究室内に移転致しました。私、金庭久美子(横浜国立大学)が事務局運営にあたります。任期は2012年3月31日までです。皆様にはご不自由やご迷惑をお掛け致しますが、ご理解とご協力の程、宜しくお願ひ申し上げます。

ホームページアドレス：

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jlem/>

メールアドレス：

jlem-ml@tiu.ac.jp

●会誌の電子化の許諾について

ホームページでもご案内しておりますが、会誌の電子化作業(PDFファイルをCD-ROMに保存)を進めております。これまでに「会誌原稿電子化許諾のお願い」を電子メールでお送りしましたが、連絡がとれない方が多数いらっしゃいます。Vol.1-Vol.15(1993年~2008年)に発表された方で**電子化を希望しない方は**、「日本語教育方法研究会 電子化係(jlendenshika@hotmail.co.jp)」

までご一報ください。

尚、来春の2011年3月31日までにご連絡がない場合は、お認めいただいたということで対応したいと思います。ご理解とご協力のほど、よろしくお願ひいたします。

●会誌の送付について

5月末で会費の確認ができない方は9月以降の会誌の送付を中止いたします。その後、12月にニュースレターをお届けしますので、その際、封筒のラベルに書かれている数字をご覧になり、払込年度をご確認ください。(会費の納入方法はホームページをご参照ください。)

●バックナンバーについて

会誌バックナンバーの販売を行っております。一冊700円(プラス送料実費)です。購入ご希望の方は事務局までご連絡ください。おおまかな在庫はホームページに掲載しておりますが変動もございまして、ご参照の上、事務局宛メールでお問い合わせください。

(金庭 久美子)

ご連絡先を お知らせください

下記の方々の連絡先が不明となっております。ご存じの方がいらっしゃいましたら、事務局までご一報くださいますようお願い申し上げます。

桜田 千采	田淵七海子
尹 ヒョ禎	増倉 洋子
福本 太一	洪 在賢
村上 康代	伊藤 実希
道脇 綾子	西脇 英美
小林 友美	堀内 貴子

会費納入について

振込先：（郵便局）

銀行名 ゆうちょ銀行

金融機関コード 9900

記号 10140

店番 018 店名 ○一八店

（ゼロイチハチ店）

預金種目 普通

番号 69076511

加入者：日本語教育方法研究会

* ご注意

この口座は電信払込しかご利用い

ただけません。

氏名を先に後入力ください。印字の都合上、ご所属のみしか届かず、お名前が判明できない場合があります。

会費は年 3000 円です。

* 海外からの会費払い込みについては、国際郵便為替でお支払いください。

なお、2 年間未納の場合は自動的に会員資格停止となります。また、事務局からのお知らせにありましたように、5 月末で会費の確認ができ

ない方は9月以降の会誌の送付を中止いたします。ラベルの納入年度をご確認のうえ、お早めの納入をお願い申し上げます。

問い合わせ先：jlem-ml@tiu.ac.jp

日本語教育方法研究会

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jlem/>

jlem-ml@tiu.ac.jp

（レター編集：小林由子）

新会長就任ご挨拶

川村よし子

JLEM の設立は 1993 年とのことですから、今年で 18 歳、大人の仲間入りの歳ですね。それを象徴するように、「手作りの会」としてスタートした研究会も 500 名を超す大所帯となっています。とはいえ、設立当初のあたたかいアットホームな雰囲気を持ち続けているのは、とても素晴らしいことだと思います。私が初めて JLEM に参加したのは 1998 年ですから、12 年前のことになります。当時の会長のカイザー先生が、研究会の最後に「講評」という形で、パワーポイントの使い方やポスターでの発表方法、また、英文アブストラクトについてちょっと辛口のコメントをなさるのを聞いて、とても新鮮な驚きを感じました。そして、この研究会が「教育」研究会ではなく、「教育方法」研究会であることを実感しました。その時の私の発表は、後に『リーディング・チュウ太』のツールの一つとなる語彙チェッカーに関するものでした。その後も折に触れチュウ太の成長の様子を研究会でお伝えし、皆様からいろいろ貴重なご助言をいただけてきました。ですから、昨年、無事 10 歳の誕生日を迎えることができたチュウ太は、いわば、JLEM に育ててもらったようなものです。今回、会長という大役をお引き受けするには戸惑いも大きかったのですが、鶴ならぬ「ねずみの恩返し？」ができればとお引き受けした次第です。大きな組織になっても、会員一人ひとりの顔の見える研究会、有益な情報発信・情報交換が行われ、お互いに成長していくそんな研究会であり続けるために、多少なりともお手伝いできればと思っています。皆様、どうぞよろしくご支援のほどお願い申し上げます。